



「ほり(環濠)跡」  
昭和51年に初めて遺跡が確認され、平成18年まで調査が続いた

## 丸亀市最古のむらは、 県内最古の米作りのむら

～刻まれた歴史の記憶～



中の池遺跡は、県立丸亀競技場の北側、丸亀市金倉町にある。地区の小字名から「中の池遺跡」と名付けられた。

紀元前四世紀ごろ、九州北部に大陸から渡来した人々により稲作が伝わった。そのころ、今までは違う新しい形の土器が作られた。この土器を

弥生土器と呼び、この土器を使用した時代を弥生時代と呼んでいる。この遺跡は、昭和六十一年の発掘調査で「ほり」に囲ま

れた「むら」であることが分かった。このような遺跡を「環濠集落」と呼び、紀元前三世紀～一世紀ごろのものと考えられている。「むら」は最初、長径六十メートル程度の楕円形の「ほり」に囲まれていた。だんだんと大きくなり二重、三重の「ほり」が巡るようになる。周囲にも「ほり」をもつ「むら」ができ、大きな「むら」となった。

「ほり」の内側には竪穴住居などの住まいがつくられ、「ほり」の外側にはお墓がつけられていた。

## 中の池遺跡



県内最古の水田跡

「むら」のすぐ近くで当時の水田跡が見つかった。一番古い水田は県内最古で、河川跡のくぼ地を利用していた。面積は一・五×五・二平方メートルと小さく、形は不定形だった。水が畦越しに田を越えていく原始的なもので、九州より少し遅れて伝わった。「ほり」からは、土器や石器が

多数出土している。土器は食器や調理具、貯蔵具として、石器は工具や農具、狩猟具などとして使用された。また、鹿や猪、魚や鯨の骨も見つかっている。人々はこれらの動物を食べていたのだろう。「花粉分析」から、中の池遺跡の弥生人はうり類なども栽培していたようだ。

この時代には、大陸から金属器も伝わり、銅剣の欠片も見つかっている。また、石剣や土面、ミニチュア土器など、祭りに用いたと考えられるものもある。



出土品は、市立資料館2階の常設展示室で見られる

発掘調査によって、中の池遺跡は、弥生人の生活を知ることができ、重要な遺跡となった。

(文責 文化課・東 信男)



東京・品川・新横浜へ早めにおトクな JR

# のぞみ早特往復きっぷ

■観音寺～宇多津発→東京都区内・横浜市内 有効期間:7日間 席数限定

片道あたり **14,500円** 発売額(往復) **29,000円**

「観音寺～宇多津間の各駅」～岡山駅間は往復特急列車 普通車指定席にご乗車いただけます。

※ご利用開始日の21日前から7日前までの発売となります。

車deトレイン JR四国電話案内センター **Tel.(0570)00-4592**

笑顔・親切・丁寧なお店お気軽にどうぞ!

マイショップ会員にご登録(新規・他店からの変更 ドコモダケグッズ含む)、またはメッセージRにご登録いただいた方に **プレゼント!!**

ご来店者様(先着300名様) ※広報まるがめ10月をご持参頂いた方に限ります。

**素敵な粗品プレゼント!**

**毎週水曜日 レディースday 実施中**

**ドコモショップ丸亀店**  
 県道33号線沿い、丸亀高校南側  
 〒763-0033 丸亀市中府町1-7-17  
**☎0120-521-068**  
 (営業時間10:00～19:00)年中無休

広告掲載について詳しくは、市秘書広報課(☎8800)または市ホームページでご確認ください。

この広報紙は、四国新聞販売(株)に委託し、市内の全世帯(※一部地域を除く)に配布しています。配布のお問い合わせは、同社(☎0120-494459)までご連絡ください。 ※城郭コミュニティ地区は同センター(☎0012)へお問い合わせください。